

設立趣旨書

1 趣旨

近年、沖縄県を取り巻く観光情勢は目まぐるしく変化をしている。2020年には那覇空港第二滑走路の共用も開始され、1,000万人の観光客が沖縄にやってくる見込みである。そのような状況の中で観光開発が進み、人の活気に包まれる地域もあれば、それらの波に飲み込まれ、その地域が持つ古き良き伝統や資源を消滅させてしまう地域も出てきているのは周知の事実である。

名護市東海岸久志地域においても開発が進むのも時間の問題であると言われており、今まで誰もいなかった地域の浜には観光客等のゴミで溢れ、SNS等の情報拡散による観光整備がなされていない場所への来訪者増加も予想され、豊かな地域資源が危機に晒され始めている。

久志地域では、地域住民が誇りを持ち守り続けてきた地域資源（自然・歴史・文化等）を次世代へも継承できるように守りながら、その魅力を地域住民自身が発信していくグリーンツーリズムを推進する地域づくりを、任意団体 久志地域交流推進協議会として行ってきた。

今回、法人として申請するに至ったのは、任意団体として実践してきた修学旅行民泊、一般客を対象とした農家民泊や体験型観光などの旅行サービス手配事業などをさらに地域に定着させ、継続的に推進していくことに加え、行政や地域内外の関連団体との連携を深めていく必要があること等の観点から、社会的に認められた公的な組織にしていくことが、最良の策であると考えたためである。

また、当団体の活動が営利目的ではなく、多くの地域住民の方々に参画していただくことが不可欠であるという点から、特定非営利活動法人格を取得することが最適であると考えた。

こうした法人と地域住民が一体となることで、久志地域の持続可能な地域社会の実現に向けて、地域住民自身が地域の未来や課題に対して主体的に活動していくことを目指す。

そのためにも、久志地域の地域住民と観光客等を繋ぐ組織として当法人を確立し、「自分たちが暮らしを楽しめるような地域に」をテーマに、地域にある課題や可能性にチャレンジができる事業展開をしていく。

この21世紀は、人々は都市や町から本物の豊かさを求めて田舎へ向かう世紀になる。いつまでもひたすらに頂を目指すのではなく、人々は下山の途につき麓にある「宝物」に気づき始めている。「宝物」をいつまでも守り抜くことが、やがて千億に値する指数を生むはずである。こういった価値を提唱していく組織となることが、久志地域のみならず日本全体の地域の価値を高めていくことにつながると考えている。

2 申請に至るまでの経過

平成25年 7月25日	久志地域交流推進協議会の設立 民泊事業を中心に久志地域内に年間約1800名の交流人口を生み出す。
平成30年 6月30日	総会時にて「組織改編準備委員会」の発足 法人設立に向けた勉強会を実施
平成30年 7月26日	第1回組織改編準備委員会開催
平成30年12月 6日	第2回組織改編準備委員会開催
平成30年12月11日	第3回組織改編準備委員会開催
平成31年 1月22日	第4回組織改編準備委員会（拡大版）開催
平成31年 2月15日	第5回組織改編準備委員会開催
令和元年 6月19日	第6回組織改編準備委員会（発起人会）開催
令和元年 7月25日	設立総会開催

令和元年 7月 25日

NPO法人 久志地域観光交流協会

設立代表者 島袋 正敏